

市原市認知症対策連絡協議会 第5回例会議事録

日時 平成26年(2014年)10月16日(木) 18:30~20:45

場所 市原市役所 3階 会議室 参加者 71名

1. ミニ講演会

「コンビニにおける認知症についての取り組み」 (資料参照)

(株)セブン-イレブン・ジャパン 市原地区ディストリクトマネージャー 土肥貴司氏

「市原市における新しい地域包括ケアシステムの構築について」

市原市役所 高齢者支援課 亀山

「千葉県オレンジ連携シート」について

千葉労災病院 小沢医師

○県で作成したもので、市原市内ではまだ普及していない。2月頃に普及のための講演会を予定している。

使うタイミングは、問題が発生した時。本人に問題意識がない場合でもスムーズに診察ができるように。

○帝京病院でも使っている。受付で渡しておいて、診察時には医師に目をとってもらうようにしている。

2. 分科会

【医療部会】14人

○いかにしてスクリーニングを進めていくか。早い段階で認知症の方を医療に繋げていく。歯科医院に受診した人で気になる人を突然MMS Eする訳にはいかない。金融機関でもスーパーでも同じことがある。

緊急性の高い場合(倒れこんでいる等)は問題なが、微妙な時期は対応が難しい。

お祭りなどでスクリーニング検査を持って行っても、関心のある方が受けるだけで本当に受けたほうが良い人は受けてくれない。

先進地での個人情報の扱いを勉強する必要がある。佐倉市ではケアマネがMMS Eを行い、医療機関につなげている。佐倉市でのやり方や、ケアマネの勉強方法などは学んでいく必要がある。ケアマネが関る前に、医療機関にかかる事もあると思うが、ケアマネが導入口になっている方法なども学ぶ必要がある。

地域のコンビニなどで、おや?と思ったときに使えるツールがあると良いと思う。

辰巳・大厩地区をモデルにしてパスの流れを考えた。場所に応じたスクリーニングや検査ができれば良い。薬局や歯科医院で、銀行、コンビニで検査することは難しいから、包括に連絡するとか。→市議会に働きかけ、個人情報の条例を作る?という案も出た。

【施設部会・サービス・地域部会】55人

○自分の在住・在勤先の地域ごとに分かれ、地域の社会するワークショップを行なった。特に、既存の福祉以外の資源でも工夫したら機能の拡充・新たな資源の開発ができるのではないかとこの点を重視した。(途中経過は模造紙で発表)

○次回の宿題 各自が「工夫できそうなこと」はどうやったら実現できそうか?を考えてきてもらい、以降、各地域での地域包括ケアシステムのネットワークやケアパスの具現化に繋げていきたい。

実現に向けて進むために、皆で取り組んでいきましょう。

例えば、近所のパチンコ屋で「ちょっと気になる人がいたら、〇〇包括に声をかけてください」と宣伝する。

3. 全体会

○民生員さん用・スーパーやコンビニ用などそれぞれのチェックリストを考えてみようと思っている。

チェックリストを作った後は→包括に繋げること・ガイドブックを渡してもらったり、いよいよ知らせたほうが良い場合には、個人情報を超えて通報できる条例の整備などが必要。虐待などは個人情報保護より通報が優先される。

個人情報に関しての先進地を市役所の方からも調査する。

小沢議員→生命の危険がある場合は個人情報保護より優先して情報提供が必要。

災害時の情報提供も、個人情報が壁になっていて情報の共有ができていない。認知症の問題も大きくなると予測されるので、各自治体が条例整備などで進めていく必要があると思う。

ケアマネさん→認知症で支払いの方法が分からず、ライフラインが止められていた、というケースもあるの
でその時は行政が確認してみるとか・・・。

大牟田市や鉏路市は少子高齢化や独居の方も多く、個人情報よりも「私達を助けてくれる人」を探すために個人情報の壁が崩れたということ。

警察署の方も、行方不明になったら躊躇しないで通報して欲しいと言っていた。

認知症で家族に気になる人がいたら、お気に入りの靴や身につけるものに名前を書いて欲しいと言っていた。

警察の方が、市役所の放送が連絡をしてから遅いと言っていた。

民生員の人で、町内の人たちだけでも認知症の人の情報を把握するために活動している人がいる。

次回は平成 27 年 1 月 22 日木曜日 市民会館